

木工研究会 椅子講習会 Yチェアから学ぶ

開催日時：2017年7月2日（日）13時から17時30分

会場：長野市 もんぜんぶら座 会議室 801 参加者 38名

講師：坂本 茂（木工デザイナー）

報告者 岡田 泰

西川 栄明（木工ライター、椅子研究家）

島崎 信（武蔵野美術大学名誉教授）

「Yチェアの秘密」の著者 坂本茂さん、西川栄明さんと島崎信先生をお迎えして長野市で講習会が開かれた。

同時期に信濃美術館でウィンザーチェア展が開かれているので椅子に興味のある参加者40名が集まった。

Yチェアを販売しているカール・ハンセン・ジャパンに24年間勤務した後、独立して木工デザイナーとして活動されている坂本さんは、西川さん曰く「日本でいちばんYチェアに詳しい人」。

CH24（Yチェア）を生み出したハンス J. ウェグナーについて

ハンス J. ウェグナーはデンマークのトゥナーという田舎の出身で、伝統的なマイスター制度にのっとり、家具職人の見習いから始まり技術を身につけてから工芸学校にてデザインを学んだ。生涯で販売された椅子が500（試作を含めると800）、残された図面は2500もあると言われ驚異的な数のデザインをした。

日本でYチェア（アメリカなどでは通称ウィッシュボーンチェア）と呼ばれた椅子の人気が出たのは少し時間がかかり、発表された1950年当初はデンマークでも良く評価されず1955年頃より人気が出てくる。

ウェグナーは製作するメーカーのタイプ（機械加工が得意か手加工か）に合わせてデザインしている。家具職人としての技術とデザイナーとしての感性が優れているのでロングセラーを生み出している。

Yチェアの後ろ脚は3次元に見えて実は45mm厚くらいの板を2次元で削り出し、背板は上部の曲げ木のRに合わせて差し込む時にわずかに曲げるので割れが起きないように積層で作られている。

貫も座枠と平行ではなく、且つテーパーを持たせることで強度と軽快なイメージを感じられるデザインとなっている。

近年問題になったコピー品について

ウェグナー没後、2007年頃からYチェアのコピー品が多く出回った。

カール・ハンセンにて坂本さんは法律的にジェネリック、リプロダクトと称する模倣品の対策をされた。

実際にコピー品をお持ちいただき比べてみた。2脚の完成品を並べてどちらが本物でしょうか？間近で触れてみないとどちらとも言いがたいと感じたが正解は？...2脚ともコピー品でした！

言われてみれば曲げ木のジョイント、後ろ脚のフォルムなど多々違いがあるが一般の消費者にはきっとわからないだろう。

分解したパーツも見せていただいた。

こちらは一目瞭然。ホゾに胴付きが無く大入れで突っ込んだだけであったり後ろ脚が太く滑らかでない曲線が触るとよくわかる。

寸法的にもなぜか違いがあるのは「コピー品をコピーしたのではないか？」とも。

強度もかなり弱そうであったがこの椅子をウェグナーのYチェアだと思って使っている人が世界中に大勢いる。

坂本さんらの尽力で立体商標を取得し、以前よりネットショップなどにコピー品を堂々とは売らなくなったが、まだ（長野の某ショップなどにも）販売している所もあるらしい。

ペーパーコード編みの実演

台形のYチェアの座枠は四角になるようにまず前枠に捨て巻きをするが、釘で止めてスルスルっと、早い！

途端に坂本さん職人モードに。ペーパーコードの束からシュッシュッと10回ほど（10～15m程であろうか？）取り出し規則的に編み込みに入る。つなぎ無く1本で編むのは現実的ではないので座裏で繋ぐが結ぶのも早い！今までに張り替えも数多くしたが結び目がほどけていたのは見たことが無いとの事。

張り方のコツは？ 「特にない。ただ同じテンションで均一に張る事。」

また、コードのねじれや絡みがわかりやすいように素手で作業している。

一定のリズムとスピードで張り進み、数回手を止めた時に質問に答えられたが、あっという間にほぼ出来上がり、と思いきや最後はほんの微かな隙間に道具を使って差し込む事を何度か繰り返して完成。

裏に釘止めして坂本さんの名前のタグをコードエンドに結び、座の中に入れ込む。

編んだ人の印として残し、コードが出てくる事を防ぐ意味もあるとの事。

メーカーでもコードエンドに名前を書いているので、もし名前の入っていない新品のYチェアはコピー品の可能性が高い。

丁寧に編み直した椅子は20年は使えるとのこと。

ちなみにYチェアのペーパーコードはデンマーク製のアンレースタイプ3ミリで、日本製（早瀬工業）の6ミリと紙の量は変わらないので固く詰まっている。

デンマークのペーパーコードの巻き方は上から見てS形で早瀬工業はZ形と逆向き。
ウェグナーのJ39は少し太いペーパーコードを使っている。



張り始めてからわずか50分！美しくきっちりと固く張られた座面はさすが本物と一同、関心（感動）の拍手。

模倣品パーツ

本物パーツ

座編み実演中の坂本氏

ウェグナーと親交のあった島崎先生のお話

デンマークが現在のようなデザイン大国になれたのはデザイナーひとりで良い物を作れるのではない。製品化する事ができる優秀なメーカー、発表する場所、価値を理解し販売する組織など、背景には様々な支えがあり国を挙げてその仕組みを作る、国をデザインした事が素晴らしい。1920～1950年の30年で高品質なモノを理解する教育をし、作り手→売り手→使い手がトータルで共有していると感じる。

ウェグナーに限らず、デンマークのデザイナーはイギリスのウィンザーチェア、アメリカのシェーカーチェア、中国の明代の椅子など海外の古典家具や日本文化・工芸も研究し成果を生かしている。

今秋デンマーク展を日本で開催するにあたり島崎先生はデザイン大使として多忙な時を過ごされています。

日本が国として大きな意味でのデザイン考え吸収される事を期待します。

今回、Yチェアを通じモノとしてだけでなくデザインの意識を感じ取れた有意義な講習会でした。